



2020
中川真依の
GO!GO!
東京オリパラ
東京オリンピック・
パラリンピック開催まで
あと **7** か月



▲いつもパワーをくれていたプーちゃん

競技生活を支えてくれた 家族の存在

私が海外の試合に出場するようになってからは、チームでの合宿や日本代表合宿、国内外の試合などがあり、家でゆっくりできる時間がとても限られていました。外で受けるストレスや疲労は全て家で発散していた私。家族の理解と支えがあつてこそその競技生活だったと思います。

競技生活でくじけそうな時には、泣きながら母に電話をしたこともありました。今改めて思うことは、私にとって「家」というのは唯一全てを解き放ち休息できる場だったということです。海外の試合へ行く事前合宿と出発までが1日空いていれば、家へ帰って心身を休めるようにしていました。そして、家に帰る一番の目的は愛犬のプーちゃん存在でした。私の帰りをいつも心待ちにしてくれていたプーちゃん。一緒に過ごすことが何よりの癒しとなり、いつも頑張るパワーをくれました。

新しい家族を持った今、家族とは何かと考えることが多くなりました。疲れた翼を休める場所になるように、これからは支える側として家族を守っていきたいと思います。

問い合わせ スポーツ育成課 ☎24・8139



～国際交流員ジェシカのこまつ新発見～

ブラジルの年末年始



日本の年末年始といえば、冬景色の初詣を想像します。こたつでミカンを食べ、ずっとテレビ番組を見て年末を過ごす人もいるでしょう。

一方、ブラジルの年末年始の時期は真夏です。冬景色もないし、ミカンも季節外れだし、こたつは暑すぎるでしょう。では、ブラジル人はどんな風に年末年始を過ごすのでしょうか。日本人のように家でずっとテレビ番組を見て過ごす人もいますが、ブラジルの年末年始には代表的な二つのパターンがあります。

一つ目は花火大会です。ブラジルには夏祭りがなく、夏のピークが年末年始なので、地域ごとに花火大会をします。



▲白い服を着て波を跳び越えるブラジル人

個人的に花火を打ち上げる家庭もあります。二つ目は海辺に行きます。海に行って泳ぐのではなく、験を担ぐために行きます。ブラジルには、幸運を招くために新年に行う験担ぎの風習が多くあります。有名なのは、白い服を着ることや海に行って波を7回跳び越えることです。シャンパンで祝う人も多く、海辺でシャンパンを少し海に注いだり、ブドウを12個食べて12カ月分の幸運を招いたりする験もあります。

今年の年末年始は、ブドウを食べたり、白い服を着たり、ブラジル流の幸運のおまじないをしてみませんか。

問い合わせ 観光文化課 ☎24・8039